

平成27年度(2015年度)

厚生労働省「障害者の芸術活動支援モデル事業」実施記録

### ①オープンアトリエ

<miru miru>

言葉だけでは表せないこと、感じたままの思いなど、自由に絵画で表現してみませんか。このオープンアトリエ「mirumiru」では、アート活動を希望する障害のある人からの参加を募り、専門性のあるアートスタッフが絵画の創作をサポートします。たくさんの“できる！”と一緒に発見し合いませんか。

日時：第1回)11月21日・第2回)12月5日・第3回)12月12日・第4回)12月26日

いずれも土曜・14:00~16:00

場所：香芝市総合福祉センター 創作工芸室(2階)

定員：10人 参加費：無料

講師：岡崎潤(デザイナー、造形教室主宰)

<わくわくポン>

オープンアトリエ「わくわくポン！」って何をするとところ？絵を描いたり、ものを作って遊んだり、時には道具も自分で作ってみたり...ワークショップを通して、新しく経験したこと、感じたことを、表現したり、行動したりするところです。今回は、全3回の、身近な素材を使ったワークショップを企画しました。それぞれどんな体験ができるかな？

日時・内容：

第1回)11月24日(火)「パラシュートをつくって 飛ばそう！」

第2回)12月 9日(水)「ふわふわ♪ ボンボン人形をつくろう

第3回)12月24日(木)「ペットボトルでつくろう リリアン編み」

全回16:00~17:30

場所：喫茶ゆうほ～(奈良県生駒市谷田町1615)

対象：障害のある人ない人 だれでも

参加費：無料(材料費、お茶・お菓子代として各回500円)

講師：竹田悠佳(たんぼぼの家アートスクールPocket)

<印象のまなざし>

オープンアトリエ「印象のまなざし」では創作体験を通して「まなざし」について「みえ方」「感じ方」の違いを楽しみます。ここでいう眼差しは、実際にみえているものではなく頭のなかのイメージのことです。人間にとってモノの印象はさまざまです。このプログラムは参加者の頭のなかに広がるまなざしを色やかたち、音楽でつくってみます。創作や演奏が苦手な人・したことがない人も大歓迎です。どなたでも楽しく参加できるプログラムを用意しています。

日時・内容:

第1回)12月23日(水)「記憶をつくる」

第2回)1月23日(土)「音を描く」

第3回)2月16日(火)「空間を奏でる」 全回14:00~16:00

場所:たんぽぽの家 アートセンターHANA(第1回・第2回)

アートスペース上三条(第3回)

対象・定員:みえない人・見えにくい人5人 みえる人5人

参加費:無料

講師:吉永朋希(たんぽぽの家アートセンターHANA アートディレクター)

渡邊弥生(たんぽぽの家アートセンターHANA コミュニケーションスタッフ)

<ふれあう大地のおすそわけ!>

「土と湯気のダンス! 踊って満足・食べて満腹」

日時:1月09日(土)

場所:どろんこ畑(カフェかてと)(奈良県吉野郡下市町柝原)

定員:10人 参加費:1,000円(鍋代込み)

講師:佐久間新(ジャワ舞踊家)

「綿でかわいいオブジェをつくろう!」

日時:3月12日(土)

場所:わーくさぽーとPono(旧:大淀授産所)(奈良県吉野郡大淀町下湊)

定員:15人 参加費:500円(材料費、お菓子つき)

講師:鈴木温・広瀬志摩(たんぽぽの家アートセンターHANA)

<「ひらいたら ひらいてみよう」オープンアトリエ報告展>

はたらく、くらす、続いていく日々のなかで、自由に参加し、交流できる時間や場が地域にあったら、毎日をもっと楽しくもっと豊かになるのではないのでしょうか。「表現活動をとおして一人ひとりの違いを認め合うことができる時間」、「誰かと出会い、一緒にアートを楽しむ地域に開かれた場」。障害のある人も無い人も参加した4つの(オープンアトリエ)の活動のプロセスとうまれてきた作品を紹介します。

会期:2月16日(火)~2月21日(日)

会場:アートスペース上三条

協力:社会福祉法人いこま福祉会、NPO法人どろんこ畑、社会福祉法人総合施設 美吉野園、  
社会福祉法人わたぼうしの会

関連プログラム:レクチャー「ろう学校での創作活動」

2.20(土)10:30~12:00 (定員30名、要申込、手話通訳あり)

講師:浅田香苗(大阪府立生野聴覚支援学校美術教員)

## ②福祉とアートをつなぐアートサポーター養成講座

いま全国各地で障害のある人の豊かな表現に出会う機会が増えています。展覧会やアートプロジェクトも多く開催されるようになり、そうしたアート活動を支え、担う人の力が求められています。福祉とアートをつなぐアートサポーター養成講座では、障害のある人、ない人、誰でも参加できる創作プログラムの実施や、展覧会づくり、レクチャーなどを通し、アートサポーターとして必要な知識や心構えを学びます。連続参加はもちろん、関心のある講座だけを選択することも可能です。誰もが自由に表現できる社会をめざし、素朴な疑問や不安に寄り添い、いっしょに答えをみつけていく活動の場に、一步を踏み出してみませんか。

### ●こんなことを学びます

・障害のある人、ない人、誰でも参加できる創作プログラムの実施サポートをとおして...

多様な人が参加する創作プログラム実施において重要な考え方、具体的なプログラム、準備物、記録の取り方、注意点など

・展覧会づくりをとおして...

展覧会において「アート作品、プロジェクトをみせる」際に重要な考え方、具体的な展示方法・作業、注意点など

・レクチャーをとおして...

視覚に障害のある人、聴覚に障害のある人の創作や鑑賞において重要な考え方、具体的な支援内容など

### ●対象：

・障害のある人のアート活動を支えていきたい方

・障害のある人、ない人、誰でも参加できる創作プログラムの実施に関心がある方

・福祉とアートをつなぐアートサポーターとして活躍したい方

\* アート、福祉の現場で働く方も、そうでない方も、ぜひお気軽にご参加ください。

### ●プログラム

#### 【1】「展覧会をつくる」

展覧会において「作品」「活動」「プロジェクト」をみせる際に大切な考え方、発想、そして具体的な企画や展示方法などについてレクチャーと体験を通して学びます。

(1)レクチャー「アートって？——どうつくる、どうつたえる」

日時：1月23日(土)10:00～12:00

場所：奈良県立大学(奈良県奈良市)

講師：西尾美也(美術家、奈良県立大学教員)

(2)レクチャー「鑑賞って？——どうみる、どうみせる」

日時:1月30日(土)10:00~12:00

場所:奈良県文化会館(奈良県奈良市)

講師:宮下忠也(アートディレクター)

(3)レクチャー「展覧会って？——どう企画する、どう発信する」

日時:2月7日(日)13:30~15:00

場所:奈良県文化会館(奈良県奈良市)

講師:鱒坂兼光(有限会社スカイ(iTohen)代表)

(4)体験「展示を体験する」 \*申し込み定員に達しました。

日時:2月15日(月)10:00~18:00

会場:アートスペース上三条(奈良県奈良市)

講師:岡部太郎、藤井克英、吉永朋希(たんぽぽの家)

【2】多様な障害のある人の創作活動を学ぶ——盲学校、ろう学校での創作活動から

盲学校、ろう学校での創作活動や鑑賞の活動の話を通して、視覚に障害のある人、聴覚に障害のある人とがアートを楽しむ方法について考えます。

(1)レクチャー「盲学校での創作活動」

日時:1月23日(土)17:00~18:30

場所:たんぽぽの家アートセンターHANA(奈良県奈良市)

講師:正井隆晶(奈良県立盲学校美術教諭)

(2)レクチャー「ろう学校での創作、鑑賞の活動」 ※手話通訳あり

日時:2月20日(土)10:30~12:00

場所:アートスペース上三条(奈良県奈良市)

講師:浅田香苗(大阪府立生野聴覚支援学校教諭/美術科)

【3】創作プログラム「オープンアトリエ」

オープンアトリエは、障害のある人もない人も楽しめる実験的な表現のスペースです。オープンアトリエに参加し、サポートを通して、多様な人が参加する創作プログラムの実施について大切なことを学びます。具体的なプログラムの企画運営、サポートの仕方、準備物、記録のとり方、注意点など、アトリエ運営に必要なことを実地で学びます。(事業詳細は①と同じ)

### ③著作権講座

<6W2Hで考える、障害のある人のアート活動と著作権>

近年、福祉施設でのアート活動が盛んになっています。それに伴い、アート活動に関する権利についての悩みを抱えている人も多いのではないのでしょうか。著作権は、いつ、どのように発生するのか。作品は、誰のものなのか。

本セミナーでは、専門家の話や具体的な活動の事例を通して、作品が生まれてから、展示や販売までの過程で発生する著作権や所有権などについて学びます。また、実際に使えるチェックリストやガイドラインを共有し、各現場にあったアレンジを考えます。権利は目にみえないものですが、アート活動を行ううえで必ず考えなければならない、とても重要なものです。この機会に、一緒に考えてみませんか。

日時：基礎編／3月15日(火)18:00~20:00 応用編／3月22日(火)18:00~20:00

会場：たんぽぽの家アートセンター-HANA

参加費：無料 定員：各回20人

対象：社会福祉施設職員・学生・アーティスト・そのほか関心のある人

内容：

基礎編(著作権、所有権の基礎知識)

著作権・所有権とは、どのようなものでしょうか。その基礎知識を学びます。作品は生まれたときから、権利が関わってきます。作品をつくる前に確認すべきことを明らかにし、一緒に考えます。

たとえば：

- ・誰かの絵や写真を参考にして描いてもいいの？それを展示してもいい？
- ・生まれた作品をどうする？

展示する？販売する？商品化する？作家が持ち帰る？

- ・作家には、なにをどこまで伝えればいい？

応用編(著作権、所有権の応用知識)

著作権・所有権とは、どのようなものでしょうか。その応用知識を学びます。作品を、発表するとき、販売するとき、商品化するとき、すべてのシーンに権利が関わってきます。条件によって取り決めるべきことを明らかにし、一緒に考えます。

たとえば：

- ・どんな方法で販売する？
- ・給与規定や対価の支払いの条件はどう決める？
- ・契約はいつどのようにすればいい？

講師：

田中啓義(弁護士、登大路総合法律事務所所長)

人は助け合ってゆくもので、その相互の助け合いの中で自分も何か人のためにできる仕事につきたいと思い、弁護士を目指す。弱い立場にある人のために助力することを大切に、「まち弁」(町の中の雑多な法律問題を解決する弁護士)として、奈良を拠点に活躍している。

藤井克英(たんぽぽの家アートセンターHANAワークプログラム・コーディネーター)

たんぽぽの家プログラムサポーターとしての活動を経て、2002年よりスタッフとなる。大学で工業デザインを専攻したことをいかし、造形プログラムやクラフト制作を中心に活動。現在は、展覧会企画実施や商品の開発・発信などを行っている。

森下静香(進行:一般財団法人たんぽぽの家常務理事)

障害のある人の芸術文化活動を中心としたアートプロジェクトやセミナーなどの人材育成のプログラムの企画運営、調査研究や出版事業などを行う。2012年度から、アートやデザインの力をいかして障害のある人とともに社会に新しい仕事を提案するGood Job!プロジェクトに取り組む。

#### ④冊子『地域にひろがるオープンアトリエ すすんでひらいて つながる ためのハンドブック』

たんぽぽの家「障害とアートの相談室」では、障害のあるなしにかかわらず誰もが参加できて、自由に表現を楽しむことができる“場”や“活動”を「オープンアトリエ」と呼んでいます。こうした場をつくる実験的な試みを奈良県内4カ所で開催し、そこに参加する人の声をまとめ、取り組みから発見できることを共有するハンドブックを制作しました。

発行日:2016年3月31日

発行元・企画・執筆:一般財団法人たんぽぽの家

編集ディレクション:MUESUM

アートディレクション:UMA/design farm

漫画&イラスト:ニシワキタダシ

A5サイズ/89ページ

<https://artsoudan.tanpoponoye.org/publications/572>